

## 2014年「永代経法要」が厳修されました

4月13日（日）午前11時から、永代経法要が厳修されました。

常福寺の永代経法要は、客殿の改築前までは5月5日に営まれていました。客殿の完成に合わせてお世話人の方々と話し合い、境内の桜が美しい4月の第二日曜日に変更になりました。3月のお彼岸では、早く開花した年でも満開とはいきません。ですが、清掃奉仕会と永代経が4月になったことで、「こんなにたくさんの桜があるとは知りませんでした。」と参拝者のみなさんが驚かれました。そして今では、永代経法要はお花見法要として定着しました。

今年はずでにソメイヨシノは葉桜に、シダレ桜も満開を少し過ぎていましたが、晴天の下すがすがしい春の一日となりました。

まずは親鸞聖人の銅像とシダレ桜を背に集合写真を撮り、その後合同墓の前でお勤めをして、本堂にて勤行と住職の法話がありました。お経の練習会を昨年始めた成果なのかな？ 例年より門徒さん方の正信偈の声が大きく感じました。

住職の法話は、真宗大谷派・派祖の教如上人のお話でした。今回教如上人のお話になったのは、来月の常福寺旅行会で、教如上人のお住まいだった「北の御所」が移築されている愛知県豊田市・浄照寺を訪れるからです。

また、昨年秋から冬にかけてご門徒さんから寄贈された山号額と親鸞聖人、蓮如上人、聖徳太子、七高僧の掛け軸について、坊守より寄贈品の報告と作製の経緯を説明しました。

境内を見渡せば、山門、水屋、本堂、客殿・・・至る所、至る物にご門徒の方々の足跡があり、その尽力によって今日までの常福寺が続いています。すでに還浄されている方々、今お寺へ足を運んで下っている方々、永い永い時間を経て多くの人々に支えられての「いま」があるんだなあと感謝の思いと法要をお勤めする意義を改めて頂きなおした一日でした。最後にみんなで美味しいお齋をとりながら、門徒さんの思い出話や近況話に花を咲かせて今年の永代経法要は終了となりました。

常福寺では、年4回お世話人が集まってお寺の運営について話し合う「定例役員会」が開催されます。第1回目は1月に、第2回目は永代経法要の終了後に、第3回目はお盆法要の終了後に、第4回目は報恩講終了後と決まっています。なので、13日は第2回定例役員会も開催されました。

お世話人のみなさんには朝早くからご参集いただき、役員会終了まで一日お疲れ様でございました。いつもお寺の行事が滞りなく行えるのも、お世話人の方々の縁の下の力があればこそなのです。単なる連絡事項の報告にとどまらず、時には厳しいご意見をいただき、時には新しい提案をいただき、それがお寺をお寺たらしめる歯車と潤滑油になって進んでいきます。今回の役員会でも、秋の報恩講に向けた新しい企画が立ち上がりました。実現に向けてまた新しい一歩をみんなで踏み出さなければなりません。今からとても楽しみです。

